

第 3 回 学校運営協議会 記録

		学校名	横手市立浅舞小学校	
開催日時・時間・場所		令和 7 年 2 月 12 日（水） 11：10～11：40 【 図書室 】 （ 授業参観 10：25～11：00 ）		
出席者数	1 2 名		欠席者数	2 名
協議案件	(1)後期の学校評価結果について (2)熟議：テーマ「本校の“目指す子どもの姿”について」			
協議の主な内容	・ 5 年生のときに浅舞しぼりをやったが、すごく立派に成長した。6 年生のキーボード入力への入力が速くて驚いた。 ・ 浅舞八幡神社の祭典に対する大人達の否定的な考えがまだある。趣旨が伝わっていない感じがある。なんとか来年は盛り上げたい。 ・ 地元の伝統ある行事をなくさないように声かけしていきたい。 ・ 受け入れる側の大人の問題。こどもに何かあったらどうしようという不安。 ・ 目指す子どもの姿に伝統行事を大事にする子ども。 ・ あやめ祭りで種の配布、八幡神社の祭典でも種の配布は来年度もぜひ。 ・ 日程が分かればポスターにひまわりの種の配布の P R もしたい。 ・ “子どもの姿”といっても学校と家庭での姿は違う。子どもはその場その場で行動を変えているものだ。学校ではどういう姿なのか。 ・ このことばで先生方は、具体的にどんな子どもにしたいかを共通理解しているか。低学団部・中・高 事に具体化していなければいけないと感じる。育てる側が明確にしていないとダメ。ことばは抽象的で分かりにくい。 ・ 子どもたちは本当に真面目で落ち着いていて素晴らしい。 ・ 今、何をやろうとしていて、どういうステップで、どういう方法でやるかということを確認につかんでいる学習は積極的になる。これから販売にいかなくちゃいけない・・・見えているから真剣に、積極的にやれている。やはり目的意識や興味関心が大事、自分のものとなっている学習になっていけば真剣に取り組む。算数はなかなかそうはいかない。課題提示の仕方、わくわく感 ・ 好奇心を持たせる工夫が大事。自然に学習にある場合と先生方がつくらなければいけないときがある。 6 年生の授業では、自分たちの次のやることが決まっているので衣、次の意見交換の馬があるので、授業システムの構築が大事。個人、トリオ、全体で発表というつながり、その際に、個人からトリオ・・・その場で何をやるべきかを教えないといけない。 ・ アンケート、生活面、タブレット学習より自ら話すこと書くことをしっかり学ばせて欲しい。2 年生もっと相手意識を持って欲しい。自分の意見を相手に伝えるという気持ちを育てていくべき。同じことでも相手意識をするといいい。聞く側も相手意識があると話す人の方を見ているとよい。 ・ 自分のことだけ言うのではなく、今の人の意見を受け止め、それを踏まえて発表するという訓練をもっと先生方が意識するべき。 ・ 発表のポイント・聞くポイントを共通理解するとどんどん授業が変わる。子どもが成長する。 ・ 今後の地域を考えた場合、高卒の 8 割が県外に行ってしまう時代。今後どんな地域になっていくか。出生者数 8 人、どんな子どもたちに育てていかなくてはならないか。 ・ 県教委が始めた少人数学習は、画用紙に黒い点を打つ際に、残る子どもを大きく育てる。それによって地域を支える人間をつくっていく。			

やはり一人一人を授業で見てやるべき。活躍できなかった子をどうやって活躍させるか。うまくできない子をどう育てていくか。だれでも伸ばす。先生方一人一人が心配りしないといけない。

・点を太くする・・・アントレプレナーシップ（起業家精神）やはりスキルを身に付けて戻ってきたときに、スキルが必要。読書させて発表させ、発信する能力、自分で好きな本を探すきっかけになる。

・子どもたちが、圏外圏外と言うが、ふるさとの魅力を感じる育て方。横手市の魅力発見・・・初めはひまわりの油だけ、6，7品の品。カレンダーがよかった。自分たちで工夫して販売している力・・・魅力掘り起こす力、ぜひこれからも伸ばして欲しいし、素晴らしい成果である。

・コミスク・・・何か事業を興すということが大切というイメージ、しかし、年度はじめの校長の決めた学校経営方針を承認していただくということが大切。そのためには目指す子ども像をしっかりと共有することが大事、それがあって、地域だったり学校でそれぞれの持ち場で子どもたちを育てていくことがコミスクの大きな役割。

今日の話し合いを参考にし、学校で描く子ども増像とすりあわせ、来年度の学校経営に活かしていきたい。